

2026 年度第 2 回価格審査会の開催について

2026 年度第 2 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2026 年 5 月 14 日(木) 10:00~12:00
場 所	本部 6 F 大会議室
委 員	松田 寛志 日本工営株式会社 日本地域統括（兼）東京支店長 遠藤 和重 一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長 鈴木 由香 株式会社日本設計 コスト設計部長 星野 正 東日本旅客鉄道株式会社 東京建設プロジェクトマネジメントオフィス プロジェクト支援ユニット プロジェクト予算 マネージャー(総括) 松本 尚佳 東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長
当 会	共通資材調査部 部長：小林 法雅、次長：南 昌宏 建築調査部 部長：高橋 俊一、次長：岩井 卓矢 監査審査室 室長：黒澤 昭浩 調査統括部(事務局) 部長：大澤 勝

2026 年度第 1 回価格審査会議事録(案) 確認

2026 年度第 2 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明
<p>1. 「建設物価」6月号、「Web 建設物価」6月号</p> <ul style="list-style-type: none">・価格が上伸した資材（工事費） <p>【Web 建設物価】</p> <p>異形棒鋼（青森市ほか47都市）、等辺山形鋼（福井市ほか10都市）、セメント（袋）（全国）、レディーミクストコンクリート（普通セメント使用）（大船渡市ほか14件）、コンクリート用骨材（飯田市ほか27都市）、コンクリート型枠用合板（全国）、アスファルト混合物（札幌市ほか419都市）、道路用コンクリート製品（京都市ほか1都市）、構造用合板—JAS品—（全国）、600Vビニル絶縁電線（IV）（全国）、燃料油（ガソリン・軽油）（全国）、鉄スクラップ（全国）ほか。</p> <ul style="list-style-type: none">・価格が下落した資材（工事費） <p>【Web 建設物価】</p> <p>再生砕石類（茨木市ほか2都市）、燃料油（重油）（全国）ほか。</p> <p>2. 比較資料</p> <ul style="list-style-type: none">・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	再生砕石が需要減少による受注競争の激化により下落しているが、需要減少の背景は何か。	再生砕石は道路用路盤材として使用されるが、維持補修工事では表層のみを切削・更新する工事が多く、路盤材の需要は限定的となっている。また、大阪地区では、万博関連の解体工事によりコンクリート殻の発生量が増加している一方で、使用先が限られていることから在庫が過剰気味となっており、今月は茨木市や東大阪市で市況が下落している。
質問 2	鉄スクラップが上昇傾向にあるが、異形棒鋼のように鉄スクラップの価格動向の影響が強い資材は何かがあるのか。	鉄スクラップは、主に電炉メーカーの鉄鋼製品価格に強く影響する。また、近年は高炉メーカーも脱炭素化に向けて鉄スクラップを一定割合で投入していることから、鉄鋼メーカー全般で影響が生じている。なお、鉄スクラップの影響は主として鉄鋼製品に限られる。
質問 3	資材価格が高騰するなかで、買い占めや買い控えの動きはあるか。	資材価格の値上げ前に購入する仮需は、多くの資材で発生している。例えば、シンナーでは、メーカーが値上げを発表した直後に品薄状態となった。一方、買い控えが顕著にみられる資材は、現時点ではほとんどない。
質問 4	原油価格が値上がりしているなか、ストレートアスファルトが横ばいだったのはなぜか。	ストレートアスファルトは、前月号で東京地区においてトン当たり 43,000 円上伸するなど、全国的に大幅な上伸となった。供給不安による上昇圧力と停戦期待による下落圧力が交錯し、原油相場の不安定な状況が続くなか、元売が仕切価格を据え置いたため、当月は横ばいとなった。
質問 5	異形棒鋼が全国的に値上がりしているなか、北海道地区だけ横ばいの理由は何か。	北海道地区は他地区からの運搬コストが高いことに加え、電炉メーカーの集約化が進み競争性が低いため、全国市況の影響を受けにくく比較的高値で推移し値動きが少ない傾向がある。
質問 6	中東情勢によるナフサ不足の影響で、ビニル系の梱包材等に影響はあるか。	建設資材において、梱包材不足を理由とした値上がりや供給不安は現時点で確認されていない。

質問 7	資材価格の高騰や供給不足により、工事の中止・中断の懸念があるが状況はどうか。	シンナー、断熱材、防水材、塩ビ管等で供給が逼迫しているとの情報があり、施工者側で資材不足により工事の継続が困難となるリスクが懸念される。また、資材価格の高騰により事業の中止・中断に至る可能性もあり、影響の規模や期間について引き続き注視する。
質問 8	スライド条項の適用増加が見込まれるが、建設物価調査会として情報発信はあるか。	中東情勢の緊迫化に伴う建設資材価格・需給動向について、ホームページで月 1 回の特集記事として発信している。
質問 9	断熱材等でメーカーの値上げが公表されているが、中東情勢の影響が掲載価格に反映されるのはいつ頃か。また、公表価格の扱いはどうなるか。	中東情勢の影響を受け、メーカー各社は 4 月以降、5 月出荷分を対象に値上げを打ち出している。これらの値上げについては、取引実態を確認後、順次反映していく見込みである。なお、公表価格については、6 月号で掲載価格を改定する製品もあるが、現時点で価格改定の回答ができないとするメーカーも多く、改定待ちとなっている製品もある。メーカーからの回答があり次第、随時対応する体制を整えている。
質問 10	異形棒鋼の値上げ額が東京地区でトン当たり 3,000 円、福岡地区で同 1 万円と、地区によって差がある理由は何か。	メーカーの値上げ打ち出し額はトン当たり 15,000 円程度とかなり大幅であり、強い取り組み姿勢が伺える。全国的に値上げが進んでいるものの、価格水準や地区ごとの需給動向により、浸透速度にばらつきが生じている。九州地区は比較的需要が堅調で値上げの浸透が早いですが、最終的には全国的に同水準に収れんとみている。
質問 11	アスファルト混合物は値上がりしているが、セメントやレディミクストコンクリートは大きな変動がない。資材によって価格変動の度合いが異なる理由は何か。また、異形棒鋼も中東情勢の影響で値上がりしたのか。	アスファルト混合物は、主原料のストレートアスファルトが原油価格の影響を直接受ける。一方、セメントは石炭価格の影響を直接受けるものの、原油価格の影響は間接的であり、タイムラグがあるとみている。レディミクストコンクリートも主原料がセメントであるため、同様の傾向となる。主要建設資材 10 品目のうち、中東情勢の直接的影響を受けるのは燃料油とアスファルト混合物に限られる。異形棒鋼については、中東情勢の影響というよりも、メーカーの人件費や製造コストの増加分を反映したコストプッシュ型の値上げが浸透したものである。

質問 12	<p>値上げに伴う買い占めの発生によって需給バランスが崩れるおそれがある。今後の価格動向をどうみているか。</p>	<p>今後の価格動向については、資材ごとに様相が異なるとみている。原油由来の製品（アスファルト混合物、塗料、樹脂系製品等）は中東情勢の影響を直接的に受け、上伸基調が続く見込みである。一方、鋼材のように原油価格の影響を直接的には受けない資材は、人件費・製造コスト等を背景としたコストプッシュ型の値上げが中心となる。資材不足や価格高騰の長期化によっては、工事の中止・中断が懸念される局面も想定されるため、引き続き需給と価格の両面から動向を注視していきたい。</p>
審議結果	<p>「建設物価」 6月号、「Web 建設物価」 6月号の価格動向に問題はなかった。</p>	

以 上